

地盤工学会 会員・支部部  
平成 19 年度第 2 回技術者教育委員会議事録（案）

日時：平成 19 年 11 月 19 日(月) 15:00～17:30

場所：地盤工学会中部支部事務所（ポーラ名古屋ビル）

出席者：中野，大橋，木村，小林，竹内

資料

- 資料 1：委員会名簿
- 資料 2：前回議事録
- 資料 3：H19 年度会員支部部の活動目標と実施計画
- 資料 4：第 4 3 回地盤工学研究発表会 DS 希望に関するアンケート
- 資料 5：産官学連携支援委員会報告
- 資料 6：第 3 期技術者教育委員会取り組み
- 資料 7：第 3 期委員会 試案プログラム 4：国際的互換性のある技術者の育成支援活動
- 資料 8：地盤工学会関東支部 技術者の英語案内
- 資料 9：第 3 期委員会 試案プログラム 7：支部における市民と強制的な NPO 活動
- 資料 10：被災宅地危険度判定連絡協議会 HP より抜粋
- 資料 11：技術者交流特別セッション WG 運営細則
- 資料 12：H19 年度 会員・支部部会の活動（検討課題）に関するアクションプラン
- 資料 13：年間スケジュール（案）
- 資料 14：地盤工学会における 2007 年問題と技術の伝承について（大橋委員）
- 資料 15：コース制による講習会参加のインセンティブ（小林委員）

議題

0－1 名簿の確認

- 木村先生の所属が間違っていた：（変更）国際融合創造センター→産官学連携センター

0－2. ルーマニア国際会議について

技術者教育委員会と趣旨が合致している。現在の取り組みをまとめて投稿する。

他関連委員会との確認を部会で確認する（中野委員長）

1. 前回議事録の確認

中野委員長より資料 2 の説明。了承された。

2. H19 年度会員支部部の活動目標と実施計画－技術者教育委員会担当（案）の確認

- 担当(案)とアクションプランの内容を確認した。
- 3.1(2)専門分野の情報共有と提供に関しては事業部が進めている講習会のコース性と関連している。木村前委員長と飯塚事業部長との間ですり合わせ済み。現在，事業部が実現化を進めている（後で，議論する）。
- 3.3(4)公開講座の開催… に関しては、4 期提言および新コンテンツ案の技術の伝承・技術

者の地位向上とも関連しているのでそこで併せて議論する。地盤工学会および土木学会中部支部が実施している出前講座が参考になる。

### 3. H19 年度活動目標・実施計画の現状把握と具体的方策の検討

#### (1) 第4期提言コンテンツ・アクションプランの具現化／現状の把握・問題点.

##### ①データベース：

- 前委員会では本多委員が中心的に担当していた。
- 現況の問題としては管理がバラバラになっていることがあげられる。全国大会参加時に収集するデータや S&F 投稿時のデータが活用されていない。こういったものを一元的に管理すればデータベースができる。現時点では地盤工学会事務局の長尾さん(?) が把握している。
- データベースの項目として学会員の評価という提案がある（浅岡前副委員長）。現時点では CPD 獲得ポイント数（内容も）や論文の分野や投稿数、座長経験の把握ができるものでも有益である。学会としてある分野ではこの人といったような推薦ができるようなものになればいい。
- 今後、実際データベースを構築していく際の WG 立ち上げが必要である。WG には実際に CPD 委員会や他部でデータベースを必要としている人がメンバーになるのが望ましい。構築の実際の作業は専門業者に発注することになるが、WG では見積もりを取ることができるものまでを作成する。
- WG 立上に向けて、12 月中にメール審議をして、1 月の会員支部部会で中野委員長より提案することを目標とする。データベースの概要が把握しやすいような 1 枚ものの資料と WG 細則的なもの(資料 1 1 参照)をそれまでに作成する。

##### ②講習会：

- 資料 15（事業部技術普及委員会作成）を配布・確認。
- 第4期提言の内容とずれている。元々、学会員が教育プログラムとしてコースを厳選して選択できるようにコース制とすることが趣旨であったのに、現状のものは今までのカリキュラムを並べ替えたものになっている。もっとドラスチックに変更する必要がある。
- 技術普及委員会に技術者教育委員会より委員を派遣して再度趣旨説明をする（木村委員）。併せて木村前委員長より飯塚事業部長に趣旨説明をする。

##### e-learning：

- 講習会のコンテンツ具現化と併せて議論することが可能・必要である。
- 他に、「youtube」的に技術者が実務で困難だと思ったときに参考にできる断片的にまとめた動画コンテンツや、放送大学を参考にしたりと、内容の議論がさらに必要である。
- 具現化に向けてはもう少し長いタームで話し合えばよい。WG 立上等に関してはもっと先でよい。

##### ④シーズとニーズ：

- 本年度の DS 開催に関しては、技術者教育委員会にて担当する。
- 次年度の DS 開催を産官学委員会に委譲していく方針を中野委員長より説明。了承。

(2) 各委員会・WGの役割, 7 私案について～第3期成果報告書から

試案2, 3, 6については, 産官学連携推進委員会が中心に検討すべきとの答申がある旨, 報告があり, 中野委員長が会員支部部で伝えることを確認した。

(3) 新規コンテンツ構築のためのフリーディスカッション

国際的互換性

- 中野委員長より資料6～8の説明。第3期ではWGを立ち上げて議論し, 報告書にまとめているので, 第3期案をたたき台に活用していくべきである。
- 地盤工学技術者は国際的に必要とされているのか。活躍の場の提供をすることが重要である。

技術の伝承・技術者の地位向上／社会貢献

- 大橋委員より資料14の説明。資料14に肉付けすれば、提言書になる。
- 「2007年問題」何が問題か？整理が必要
- 地盤工学会の分野ごとの問題についての整理が必要。
- 「技術と技能の伝承」に絞った人材育成について議論すべき
- 団塊の世代をシルバー会員として活躍できる魅力的なコンテンツが必要である。職場のしがらみのない世代による技術の伝承や, 土木遺産の説明を通じた地位向上など。
- 技術の伝承に関しては地質業協会でも取り組んでいるので参考にする。
- 一般の広報活動も併せて、ピサの斜塔やピラミッドを対象にした解説や過去のビックプロジェクトを対象とした技術者の活躍の紹介ビデオを作製する等、方策の提案。
- 技術の伝承と技術者の地位向上, 社会貢献は関連するので, 合せて議論。
- 大橋委員を中心として来年度の中間報告をする。
- 第2期学会NPOの提案(資料9)、学会承認資格の提案(資料10)の紹介。

4. 年間スケジュール策定(第4期の活動を参考に)

- 資料13(年間スケジュール案)を配布・確認。
- もう少し優先順位をつけて取り組んでもよい。
- 具現化するには多大な人手・労力が必要である。技術者教育委員会が実施するのは1つくらいでもよい。
- 新メンバーに関しては中部地区中心に呼びかける。中野委員長と大橋委員で選定する。次期委員長となるべき方にも次年度より参加することが望ましい。(第4期に関しては次回の新たな発想の転換を狙って入れなかった。具体的コンテンツの策定を目的にコンサル・ゼネコンを中心に呼びかけた(木村前委員長))

5. その他

①来年度DSについて

- 仮テーマ「原子力発電所の基礎設計と地盤工学」ではパネリスト収集困難が予想される。廃棄物に着目すればベントナイト研究者を中心に呼びかけやすい。

- 案として、テーマ「地層処分における地盤工学」とし、座長に発注者 or 電中研、司会中野委員長、座長北山先生 で呼びかける。パネリストは公募で無く指名制。
- 小林委員が案作成

## 6. その他

次回（第3回） 2/4(月)開催予定 時間等メールで調整（竹内幹事長）